

第二十八回（令和四年度）

令和独楽吟

橘曙覧顕彰短歌コンクール

主催
共催
後援
協賛

福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会
福井新聞社・NHK福井放送局
福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ・
福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会
熊本市

令和独楽吟―橘曙覧顕彰短歌コンクール―について

（募集期間 令和四年九月一日～十一月三十日）

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。

曙覧が詠んだ一連の作品に『独楽吟』^{どくらくぎん}があります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた、五二首の連作の短歌で、日常生活の中に楽しみを見つけ心豊かに生きた曙覧の心情が詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇后陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用したことで、『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より、曙覧に倣った短歌のコンクールを始め、「独楽吟部門」として生活の中で感じた身近な楽しみを詠んだ歌を、「自由短歌部門」として正岡子規に絶賛され、革新的な和歌を詠んだ曙覧にちなみ自由詠の短歌を、全国から募集しています。

今回は、独楽吟部門に六六三七首・一〇六校、自由短歌部門に一四二〇首のご応募をいただきました。

ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。

全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

審査員

独楽吟部門

審査員長

市村 善郎 歌人

橋谷 桂子 童話作家

佐孝 石画 俳人

足立 尚計 歌人

審査員

自由短歌部門

審査員長

福島 泰樹 歌人

加賀 要子 歌人

喜多 昭夫 歌人

足立 尚計 歌人

独楽吟部門

橘曙覧賞

たのしみは大工を継いで父と祖父親子三代作業するとき

福井県 牧野 大悟

独楽吟部門 入賞

福井市長賞

たのしみはいろんな名前呼びかけて胎児が蹴るのをふたり待つとき

広島県 木村佳慧

福井市教育委員会賞

たのしみは週一回のバレエの日ちびっこたちの先生になる時

福井県 木村仁美

福井新聞社賞

楽しみは既にメンズのMサイズ着る少年の背中見る時

石川県 西田淳子

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみはポニーテールを結ぶ朝今日のわたしができあがる時

神奈川県 小野愛加

福井中央郵便局長賞

たのしみはポツンと空いた一席に月一兄が帰ってくる時

福井県 寺下理彩

熊本市賞

たのしみは反抗期中の弟が思わずこぼす「おいしい」聞くとき

福井県 松川 葵

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは泣き虫だって飛び込めばプールに溶けて蝶になるとき

福井県 中出 卓哉

学校賞

大阪府 城星学園小学校

石川県 白山市立蝶屋小学校

たのしみは君に借りたる小説の赤き葉に追ひつきしとき

茨城県 小田 麻祐子

たのしみはおじいちゃんのすいかさん種を花火に変わらせる時

長崎県 山田 健心

たのしみは家に帰ると弟がよちよちこっちに寄ってくるとき

福井県 名子 鶴乃

たのしみは網を構えてリール巻き魚影がだんだん見えてきた時

山口県 田中 暖也

たのしみは凶鑑ひらいて体中臓器みんなにあいさつするとき

福井県 川上 仁己

たのしみはプハッと一口父ちゃんとビールのふりして牛乳飲むとき

大阪府 叶井 藍

たのしみは病床にある恩師より時々届く手紙読むとき

福井県 倉谷 茂

たのしみは妻に一合我二合土曜の夜に酒を注ぐとき

埼玉県 塩谷 一茂

たのしみは仏頂面の父親が孫の来る日にマルをするとき

奈良県 竹上 雄人

たのしみは白菜昆布とうがらし冬の競演漬け菜待つとき

兵庫県 佐々木 真由美

たのしみはあなたが遺した留守電のなつかしい声がわたし呼ぶとき

東京都 三村 伸子

たのしみはなべいっぱいのいちごジャムあまい香りにほおゆるむとき

福井県 北嶋 希衣

楽しみはぐらぐらゆれる歯がぬけて大人の白い歯が見えたとき

和歌山県 山根 菜々花

たのしみはえち鉄に乗り運転手の後ろに立って景色見るとき

福井県 松田 明久

たのしみはケーキの箱を開けてみてトップのいちご目についたとき

神奈川県 観堂 絢乃

たのしみは異国に住みし友からの八時間差のおはよう聞くとき

埼玉県 吉光 美桜乃

たのしみは父に氷をふふませて転ばす口をふいてやるとき

滋賀県 嶋寺 洋子

たのしみは苗木の頃を知っている公園の樹々仰ぎ見る時

福井県 杉田 厚子

たのしみは祖母の遺しし瓶底の酒漬けの梅ひとつ食ふとき

静岡県 加茂 杏奈

たのしみは深鉢いっばいおでん入れ「どうぞ」と嫁のことば聞く時

福井県 杉崎 康代

自由短歌部門

橘曙覧賞

雨粒が硝子を叩く北窓に祖霊の畑の廃れゆく見ゆ

東京都 石塚 明夫

自由短歌部門 入賞

福井市長賞

寢室にヘレン・メリルのハスキーな軽やかなjazz甘やかに充つ

熊本県 池崎 充徳

福井市教育委員会賞

曇る窓君の名前を指で書きあわてて袖で消した放課後

福井県 番場 新

福井新聞社賞

退職し田仕事始めやうやくに我が掌に血は通ひたり

福井県 原田 伸

日本放送協会福井放送局長賞

朝日浴び打ち捨てられたビニールの傘の遺骨が佇む歩道

神奈川県 河野 未瑛

福井中央郵便局長賞

岡持からトラックの荷台から豆腐屋のラッパから春が飛び出す

京都府 岸野 由夏里

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

ゆづるべき人なき書物伝へ得ぬ言葉の行方定まらぬ夜

福井県 竹原 悦子

灰燼の東京、瓦礫のウクライナ、立ち上がるものらのまなこは光る

茨城県 松田早苗

あやまろう会話の切れ目見つけては口から出るのは白い息だけ

岐阜県 柘植陽月

弟の墓のほとりに髪を切り死体に捧ぐイランの婦人

秋田県 ニコラ・フレンジン

縁側で日がな一日庭見てる米寿の母の小さな背中

大阪府 住吉美和子

しつけ糸つきし小紋に風通すいつの日着むと母は思ひしか

福井県 中橋睦美

寝たきりの母も綻ぶ町内に久し振りだね祭の囃

兵庫県 四元義朗

たくさんのおちばが風にふかれてく気づけばひたすら追いかけるぼく

福井県 川田琉斗

病魔との戦ひ終へし幼子のベッドに撓ふ七夕飾り

群馬県 外丸幸子

君がいて野良猫がきて目を合わす絵画のようなとある春の日

東京都 坪井麻衣

泣き疲れ眠りしをさなは今どんな夢見てをらん笑みをうかべて

福井県 坪田まゆみ

定年後妻の歩幅で行くとする先を急がず肩を並べて

東京都 安田 功二

コンビニに売れ残りける新聞の中に埋もれしキーウの涙

北海道 平松 泰輔

たおやかな風吹くままにさからわず亡き母うつすひなげしの花

北海道 塚原 彰

生きるためだけの献立を考える望遠鏡のレンズ拭きつつ

京都府 志賀 香成

地球儀を回して触れるウクライナ小さき指が繰り返し問う

奈良県 水谷 あづさ

思い出の一つと重ね合わすためそのままにする弾けたボタン

東京都 平久保 好一

亡き祖母のマフラー重ね首に巻く受験会場緊張ほぐす

宮城県 横溝 麻志穂

「誰しもが通る路よ」が口癖の義母今朝早く静かに逝きぬ

神奈川県 松村 美知子

階段を横向きでおられる祖母に似た女性を目で追う五段ぶんほど

東京都 岡本 千晶

誕生日自分自身も忘れてる日々の流れに追いつかぬ僕

岐阜県 吉井 悠吉

独楽吟部門 総評

審査員長 市村善郎

独楽吟の「たのしみは」は未来をうたう。短歌の多くは現代をうたう。「いま」をうたう。そのあたりが「たのしみは…とき」を約束にした短歌の面白さだろうと思う。

今回も多くの中から入賞八首、秀作二十首を選んだ。橘曙覧賞の牧野大悟さんは将来の夢を楽しむ。これから勉強と経験を重ねて親子三代で仕事をしたいという具体性がある。その上で日本の名工になるか、一級建築士を目指すのか、読者にも期待させるものを持っている。木村佳慧さんの喜び、夫と二人で待つ、と表現したのがいい。木村仁美さん、先生にあこがれている思い。西田淳子さん、たくましくなってゆく少年のまぶしさ。小野愛加さん、少女の歌。下句がいい。寺下理彩さん、大学生となった兄を歌ったか、家族皆の気持を表現した。松川葵さん、反抗期だと思っていた弟の中にある「素直さ」を発見。中出卓哉さん、プールに飛び込めばいきいきとなる気持を下句でみごとに表現した。読んでいると思いの広がってゆく歌が多かった。今回の喜びである。

自由短歌部門 総評

審査員長 福島泰樹

短歌は、マッチ箱にも手のひらにも、収まってしまふほど小さな詩型だ。しかし三十一音あれば、先祖の田畑も教室の窓も、豆腐屋のラップも、本も空も、音楽も傘も、太陽も血も、戦争も、歴史も、人生も、なんだって鮮やかに歌い上げることができる。

たとえば、入賞は逸したが松田早苗さんの「灰燼の東京、瓦礫のウクライナ、立ち上がるものらのまなこは光る」などの作は、七十八年前の東京大空襲とウクライナの現在が、時空を超えて響き合っている。しかも現実の悲惨から立ち上がろうとする人々を、「まなこは光る」と感覚的に歌い上げている。

「ゆづるべき人なき書物伝へ得ぬ言葉の行方定まらぬ夜」など一見地味な受賞作から私は、改めて本は血の通う生き物（言葉）であることを教わった。

橘曙覧賞受賞作からは、戦後日本の農業政策は正しかったのかという問いを突きつけられた。廃れゆく畑の土には先祖の血と汗が幾重にも沁み込んでいるのだ。

受賞のごとば（独楽吟部門）

橘曙覧賞

たのしみは大工を継いで父と祖父親子三代作業するとき

福井県 牧野大悟

今が一番の楽しみは、四月から家業を継ぐために親と働き始めることです。私は幼い頃から父と祖父の働く姿に憧れがありました。そんな二人と並んで仕事が出来ることが嬉しく、早く一人前になれるよう頑張りたいと思います、この歌を詠みました。

福井市長賞

たのしみはいろんな名前呼びかけて胎児が蹴るのをふたり待つとき

広島県 木村佳慧

このたびは福井市長賞を賜り、大変嬉しく思います。この短歌は、夫とふたりでお腹の中の赤ちゃんへ呼びかけたときのことを詠んだものです。「胎児」は無事に産まれ、そのときに呼んだ名前を付けて、今も元気に泣いたり笑ったりしています。短歌も日常も、より豊かで鮮やかになるよう、今後も研鑽を続けてまいります。

福井市教育委員会賞

たのしみは週一回のバレエの日ちびっこたちの先生になる時

福井県 木村仁美

この短歌は、私が習っているバレエ教室のある場面をよんだものです。毎週土曜日に早めに行って、自分のレッスンの時間まで後輩の子たちに教えてあげるようにしています。先生の代わりになって教えるその時間が楽しみなので短歌にしました。

福井新聞社賞

楽しみは既にメンズのMサイズ着る少年の背中見る時

石川県 西田淳子

賞に選出頂き大変光栄です。平凡な主婦の感性が取り上げて貰えた事に、大変な事が多いけど、私の日常も満更ではないな。という感じです。福井市に住んだ事もあり夫も未だ在住。そんなご縁でこのカルチャーに触れる事ができ、自分の意外な一面を知れた事を嬉しく思います。ありがとうございました。

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみはポニーテールを結ぶ朝今日のわたしができあがるとき

神奈川県 小野 愛加

この度は日本放送協会福井放送局長賞を頂き、とても嬉しく思います。私は高校から短歌に親しみ、三年生の最後に大きな賞を頂けて光栄です。この短歌は、学校に行くのが面倒でも、ポニーテールをすることのでわたし自身のスイッチがオンになる、その瞬間に喜びを感じることから発想しました。本当にありがとうございます。

福井中央郵便局長賞

たのしみはポツンと空いた一席に月一兄が帰ってくるとき

福井県 寺下 理彩

この短歌では、兄が県外の大学に行ってしまうポツンと一席空いているところに月に一度帰ってきて家が賑やかになる様子と、一緒に話すことを毎回の楽しみにしている私の素直な気持ちを詠みました。

熊本市賞

たのしみは反抗期中の弟が思わずこぼす「おいしい」聞くとき

福井県 松川 葵

家族の中で一番正直に感想を言ってくれるのが弟であると思っています。そんな弟の「おいしい」が私にとって一番嬉しく、料理を作る楽しみの一つとなっているためこの歌を詠みました。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは泣き虫だつて飛び込めばプールに溶けて蝶になるとき

福井県 中出 卓哉

新しいことに挑戦しようと、昨夏からスイミングスクールに通い始めました。プールに入ると身体が水に溶けていくような心地良さがあります。水と一体化した美しいバタフライが泳げた時には、身体だけでなく心も前に進むのです。同時期に始めた短歌を詠む楽しみにも通じている気がします。

学校賞

大阪府 城星学園小学校

国語授業で短歌を学んだ際、「短歌をつくって応募しよう」という目標を設定しました。いざ、短歌をつくるとなると、子どもたちもどうしたらいいのだろうと戸惑っており「考えづらい……」という声が、聞こえてきました。そこで「橘曙覧」の作品を紹介したところ、すらすらと書き始めたのには驚かされました。「分かりやすく作り手の心情が読み取れる！」そんな良いお手本との出会いとなりました。今回、学校賞を頂き、一同、大変喜んでおります。同時に中学校へ進学する子どもたちの励みや自信となりました。誠にありがとうございました。

(教諭 犬塚 圭一)

石川県 白山市立蝶屋小学校

このような賞をいただき大変うれしく思います。蝶屋小学校は、白山の伏流水が流れる手取川の近くに位置する小学校です。授業で橘曙覧の短歌「たのしみは」を参考に、自分の「たのしみ」なことや物を短歌にして作る学習をした際に、個性あふれる作品ができたので、ぜひ、たくさんの方に読んでもらいたいと思い、応募することにしました。今後も感じる心、気づく心を大切に、豊かな表現ができる子ども達になってほしいと思います。

(教諭 杉山 麻子)

受賞のごとば（自由短歌部門）

橘曙覧賞

雨粒が硝子を叩く北窓に祖霊の畑の廃れゆく見ゆ

東京都 石塚 明夫

農家の長兄が早世し独り居となった老母のため、三男の私が介護別居し帰農しました。数年後、母も亡くなった後の楽しみは短歌でした。私の女孫は外国の日本人小学校に通っており、一年に一度しか会えません。身近な楽しみとして「たのしみは〜」の歌は絶やしてはいけません。今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

福井市長賞

寢室にヘレン・メリルのハスキーな軽やかなjazz甘やかに充つ

熊本県 池崎 充徳

思い掛け無い受賞に驚いています。還暦を越えて始めた歌作り、たまにお褒めを頂くと本当に嬉しく励みになります。シンブルに、生きている喜びを歌えたらと願っています。歌は発表したら自分の物では無くなります。誰かの共感を得られたら幸いです。到達点の無い先の見えない歌作りを命の有る限り続けられたらと思います。

福井市教育委員会賞

曇る窓君の名前を指で書きあわてて袖で消した放課後

福井県 番場 新

私はまだ恋愛の経験はないですが、甘酸っぱい気持ちを詠んでみたいと思いました。だから、様々な文学作品で語彙や表現の仕方を磨く努力をしてきました。それが、この結果につながったのだとすると、とても嬉しく思います。

福井新聞社賞

退職し田仕事始めやうやくに我が掌に血は通ひたり

福井県 原田 伸

四年前に早期退職、以来知人の田んぼを手伝っています。九頭竜川を見下ろす棚田は、これまで得られなかったものを与えてくれます。

折にふれ、田仕事の日々を詠んできました。その一首が選ばれ、嬉しく思います。

日本放送協会福井放送局長賞

朝日浴び打ち捨てられたビニールの傘の遺骨が佇む歩道

神奈川県 河野 未瑛

この度は素晴らしい賞を、ありがとうございます。何気ない日常に潜む侘びしさを、歌から感じていただけたら嬉しいです。これからもこれを励みに、歌を詠み続けたいと思います。

福井中央郵便局長賞

岡持からトラックの荷台から豆腐屋のラップから春が飛び出す

京都府 岸 野 由夏里

長い冬の寒さが終わり、どんなシーンにも春の訪れを感じるような喜びを短歌にしました。

このたび、厳冬とたたかっていたある昼下がりに、自分の手もとにも春が届きました。ありがとうございます。

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

ゆづるべき人なき書物伝へ得ぬ言葉の行方定まらぬ夜

福井県 竹原 悦子

この度は拙い作にお目を留めて頂き、有り難うございます。

十代の頃から慣れ親しんできた詩歌、中でも最も多く詠んできたのが短歌です。

これからも、心のアンテナの感度を上げて、私的な題材のみならず、広く社会に目を向けた「うた」も詠んでいこうと思っております。

〈独楽吟部門〉旧名称 平成独楽吟部門

橘曙覧賞受賞作品 (第18回～27回)

第27回 (令和3年度) 石川県 吉本渚星
楽しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき

第26回 (令和2年度) 広島県 光岡 碧
たのしみは失敗しても父さんが頭ポンポンなぐさめるとき

第25回 (令和元年度) 神奈川県 井上 靖
たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるとき

第24回 (平成30年度) 山形県 湯乃村紘一
楽しみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき

第23回 (平成29年度) 福井県 丸岡里美
たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるとき

第22回 (平成28年度) 福井県 田中美代子
たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき

第21回 (平成27年度) 福井県 山本 稜
たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時

第20回 (平成26年度) 神奈川県 中嶋恭子
たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剥くとき

第19回 (平成25年度) 福井県 堂島彩愛
たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき

第18回 (平成24年度) 熊本県 志賀直子
たのしみは日の射す庭に小豆干す老父母いるを里に見るとき

第25～27回 第23・24回 第18～22回

〈自由短歌部門・テーマ短歌部門・一般短歌部門〉

橘曙覧賞受賞作品

第27回 (令和3年度) 山形県 酒井晴多
「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中

第26回 (令和2年度) 東京都 野村信廣
病床のわれにリングを食べさせるあかぎれの手の妻に触れてる

第25回 (令和元年度) 福井県 後藤由美子
亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく

第24回 (平成30年度) 千葉県 小林 功
母の背であの日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている

第23回 (平成29年度) 長崎県 牧野弘志
この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

第22回 (平成28年度) 福井県 岩崎大朔
十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う

第21回 (平成27年度) 千葉県 河野雅子
車椅子に息子を乗せし老夫婦鴨の群れみる岸辺押しゆく

第20回 (平成26年度) 千葉県 河野成実
ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ

第19回 (平成25年度) 福井県 北野よしえ
台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる

第18回 (平成24年度) 千葉県 佐藤清子
汲みおきの水とり代える幸せを震災前は思い及ばず